

廿日六日 宮城時代

福島縣石城郡平町船屋町
印刷所 加納活版所
福島縣石城郡平町船屋町
發行所 鶴城時報社
一部販賣 一ヶ月金卅錢
廣告料 行書字 諸金五十錢
△日刊 (日曜、祭日) 休刊

區長會を召集

二函館市救援協議

平消防組からも義捐金を贈る

函館市大火の報に接した平町では直ちに青沼町長の名を以つて見舞の電報を發したが更に今二十六日急遽區長會を召集され家財寶玉の全部を焼失猛烈な吹雪下に餓えと寒さに喘ぐ氣の毒な罹炎者救援に就いて協議の結果直ちに全町に亘り三萬町民の篤志寄附を募集し義捐金を贈る事になり全區長が主体となつて早速義捐募集を開始する事なつた・尚平消防組では大火の中に身も家も忘れて鎮火に努めた同市消防組の義勇の行動に感激し殊に多數組中には此の大災の厄に全財産を鳥有に歸し或は名譽の公傷を負つたものもあるので此等の人々を慰問の爲め左記見舞状に添えて金三十圓を送つた函館消防組頭 井上茂作

未曾有の慘害を現出し狀報に依れば焼失戸數二万三千余戸死者一千名以上負傷者數千人

組員若くは其御家族中にも罹

災者多可有之と察せられ誠に氣の毒に不堪候

依而茲に當組員協議の上甚だ

輕少の至りに存候へども金三

十圓也を調達し御見舞申上度

御分配被成下度此段特に御依

頼申上候勿々敬具

昭和九年三月廿四日

福島縣平町

消防組頭 井上茂作

謹啓去る廿一日貴市之火災は

その日待たれるる各炭礦の山

神祭も恒例通り來月十六、十七

十八の三日間舉行されるが不況

されて生色充ち満ちてゐる

× × ×

一層の拍車をかけられた型、磐の餘興やら或は各種の祭典準備

告燈は既報の如く恒例によつて

一輕氣球發見の場合は直ちに平

論個人經營の斤先堀等群少炭礦

まで津浪の様な好況來の聲に數

年來の暗澹な不景氣聲から解放

されてゐる

× × ×

雪下に餓えと寒さに喘ぐ氣の毒

な罹炎者救援に就いて協議の結

果直ちに全町に亘り三萬町民の

篤志寄附を募集し義捐金を贈る

事になり全區長が主体となつて

早速義捐募集を開始する事なつ

た・尚平消防組では大火の中に

身も家も忘れて鎮火に努めた同

市消防組の義勇の行動に感激し

殊に多數組中には此の大災の厄

に全財産を鳥有に歸し或は名譽

の公傷を負つたものもあるので

此等の人々を慰問の爲め左記見

舞状に添えて金三十圓を送つた

函館消防組頭 井上茂作

未曾有の慘害を現出し狀報に

依れば焼失戸數二万三千余戸

死者一千名以上負傷者數千人

に達する唯々餘りの慮外に驚

愕措く處を知らす痛恨限りな

災者多可有之と察せられ誠に

氣の毒に不堪候

依而茲に當組員協議の上甚だ

輕少の至りに存候へども金三

十圓也を調達し御見舞申上度

御分配被成下度此段特に御依

頼申上候勿々敬具

昭和九年三月廿四日

福島縣平町

消防組頭 井上茂作

未曾有の慘害を現出し狀報に

依れば焼失戸數二万三千余戸

死者一千名以上負傷者數千人

に達する唯々餘りの慮外に驚

愕措く處を知らす痛恨限りな

災者多可有之と察せられ誠に

氣の毒に不堪候

依而茲に當組員協議の上甚だ

輕少の至りに存候へども金三

十圓也を調達し御見舞申上度

御分配被成下度此段特に御依

頼申上候勿々敬具

昭和九年三月廿四日

福島縣平町

消防組頭 井上茂作

未曾有の慘害を現出し狀報に

依れば焼失戸數二万三千余戸

死者一千名以上負傷者數千人

に達する唯々餘りの慮外に驚

愕措く處を知らす痛恨限りな

災者多可有之と察せられ誠に

氣の毒に不堪候

依而茲に當組員協議の上甚だ

輕少の至りに存候へども金三

十圓也を調達し御見舞申上度

御分配被成下度此段特に御依

頼申上候勿々敬具

昭和九年三月廿四日

福島縣平町

消防組頭 井上茂作

未曾有の慘害を現出し狀報に

依れば焼失戸數二万三千余戸

死者一千名以上負傷者數千人

に達する唯々餘りの慮外に驚

愕措く處を知らす痛恨限りな

災者多可有之と察せられ誠に

氣の毒に不堪候

依而茲に當組員協議の上甚だ

輕少の至りに存候へども金三

十圓也を調達し御見舞申上度

御分配被成下度此段特に御依

頼申上候勿々敬具

昭和九年三月廿四日

福島縣平町

消防組頭 井上茂作

未曾有の慘害を現出し狀報に

依れば焼失戸數二万三千余戸

死者一千名以上負傷者數千人

に達する唯々餘りの慮外に驚

愕措く處を知らす痛恨限りな

災者多可有之と察せられ誠に

氣の毒に不堪候

依而茲に當組員協議の上甚だ

輕少の至りに存候へども金三

十圓也を調達し御見舞申上度

御分配被成下度此段特に御依

頼申上候勿々敬具

昭和九年三月廿四日

福島縣平町

消防組頭 井上茂作

未曾有の慘害を現出し狀報に

依れば焼失戸數二万三千余戸

死者一千名以上負傷者數千人

に達する唯々餘りの慮外に驚

愕措く處を知らす痛恨限りな

災者多可有之と察せられ誠に

氣の毒に不堪候

依而茲に當組員協議の上甚だ

輕少の至りに存候へども金三

十圓也を調達し御見舞申上度

御分配被成下度此段特に御依

頼申上候勿々敬具

昭和九年三月廿四日

福島縣平町

消防組頭 井上茂作

未曾有の慘害を現出し狀報に

依れば焼失戸數二万三千余戸

死者一千名以上負傷者數千人

に達する唯々餘りの慮外に驚

愕措く處を知らす痛恨限りな

災者多可有之と察せられ誠に

氣の毒に不堪候

依而茲に當組員協議の上甚だ

輕少の至りに存候へども金三

十圓也を調達し御見舞申上度

御分配被成下度此段特に御依

頼申上候勿々敬具

昭和九年三月廿四日

福島縣平町

消防組頭 井上茂作

未曾有の慘害を現出し狀報に

依れば焼失戸數二万三千余戸

死者一千名以上負傷者數千人

に達する唯々餘りの慮外に驚

愕措く處を知らす痛恨限りな

災者多可有之と察せられ誠に

氣の毒に不堪候

依而茲に當組員協議の上甚だ

輕少の至りに存候へども金三

十圓也を調達し御見舞申

非常時の女性に促す

婦人の職業の近道に
産婆看護婦を御選み下さい
それは成績の最もよいと定評のある

△申込み成るべく早く
△新学期の開始は四月八日より
平南町 産婆看護婦学校へ

平產婆看護婦學校

校長 清野キヨ子

電話三〇七番

生徒募集

△非常時日本と婦人の職業

近代の日本は婦人にも經濟の獨立をかけて参りました
婦人の職業として産婆看護婦といふ業は最も似つかはし
い天職であります。

△卒業年限僅か一年

△開業すれば収益も多大で家政の内助となり、家庭の人
ます。なつても直接役に立つのは此の産婆看護婦の業で有り

△戦争と日本婦人としての覺悟
ます。なつても直接役に立つのは此の産婆看護婦の業で有り

△古い伝統の歴史と縣下第一の好成績を誇る平町一丁目の
石城産科婦看護婦学校へ御入學下さい。

石城産科婦看護婦學校

校長 鷹崎千代

電話三五七番

磐城名物

北海屋の



感冒に最適品……身體暖まり咳を止め
早く癒ります。

箱入り二十錢より

平町二丁目

北海屋商店

電話三八八番

開店披露

此程四倉仲町元紺屋跡に紙屋の印刷所が

開店致しました

廣告にウキダシ印刷を御利用下さい

印刷・製本其他一般

四倉町仲町

紙屋印刷所

電話一一一一番

元赤心堂病院

電話四七五

外科 一般外科 内臓外科 X光線科

入院隨意 (自炊の便あり)

元赤心堂病院

安齊外科醫院

電話四七五

吸入用酸素リード 99%

衡量度 モノサシ ハカリ マス

寒暖計

体温器

吸入用酸素リード 99%

衡量度 モノサシ ハカリ マス

寒暖計

体温器

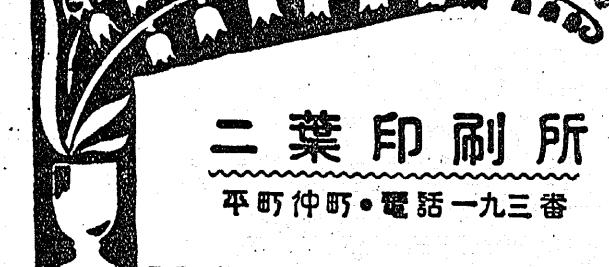
寫眞 材料一式

耳鼻科専問

平町田町七十番地

山内醫院 醫學士山内亨吉

電話六九一一番



二葉印刷所

平町仲町・電話一九三番



塩豚

タクシーの御用命は
皆様の昭和へ!!
「迅速、安全、親切」弊タクシーのモットーであります
倍舊の御負担と御聲援願ひます。

平田町

電話三四三番

昭和タクシー

平町田町

電話三三三番

美紋章

平町字紺屋町

電話四七六番

術調製

吉田紋店

新車御披露

吉田寅之輔

太平洋海上火災保険株式會社

電話四七六番

平代理店

吉田寅之輔

三十四式デラックスセダン入車致しました。
貸切の御用の節は是非御試乗を御願
致します。
最新型セダン揃ひました。

電話六四〇番

尼子タクシー

小店員數名募集

年齢十五才ヨリ

優遇ス

御希望の方ハ午後一時ヨリ

本人御來談下さい

平町田町一七

レストランサロ

電話三五二番

吉田眼科病院

平町紺屋町(電話六八番)